



平成 27 年 2 月 26・27 日(木・金) 高速道路施設木質化のための山形道視察 編

昨年 6 月に NEXCO 東日本秋田管理事務所がネットワークに加入して下さったことを契機に、高速道路の休憩施設に地域材を活用して環境整備を進めようという、木の香る道づくりにふさわしいステキな共同研究が始まりました。その一環で、昨年 8 月には秋田道下りの太平山パーキングエリア(以下、PA)でまち灯り・夏のイベントも開催しました。

地域の木材を活用した道の駅は全国各地で見ることができますが、高速道路施設の木質化は例が少ないということで、実物を見ながら今後の方針を検討しようと、秋田管理事務所の林幸宏施設担当課長、(株)ネクスコ・メンテナンス東北秋田事業所の森宏樹工務課長にご案内いただきながら、木高研の足立先生とともに山形自動車道の櫛引 PA に行ってきました。

ここは平成 24 年度に改修、内装を木質化しただけではなく、「第 30 回全国トイレシンポジウム」においておもてなしの取り組みが評価され、「2014 年日本グッドトイレ選奨」を受賞されています。利用者の意見を取り入れたトイレにするための木製目安箱や、意見に対する管理事務所からの返事が丁寧にかつキレイに掲示されています。この返事は、大貫利文所長以下、ネクスコの関連会社の社員を含めた方々が、持ち回りで上下線 PA・男女トイレ分の 4 枚を手書きしておられます。コピーをしてしまわないのが凄いところで、そうした丁寧さが他にも影響しているのでしょうか、苦情よりも高評価の意見が年々増えているそうです。鶴岡だからこそできることをやっていきたいとお話が非常に印象的でした。

トイレ内は、地域の木材・あつみ杉が壁や窓に効果的に使われています。木材を愛してやまない方々は、つつい壁全面、天井までも覆ってしまわれるのに対して、白い部分をほどほどに残しているのが、快適さのポイントのように感じます。また、掲示物に余計なものがなく、木材と質感が近いコルクボード上にまとめているので、スッキリした印象を与えています。このほかにも、参考になる点がたくさんありました。さあ、太平山 PA はどんな風に変身するのでしょうか。楽しみですね。

文：渡辺 千明



入り口横には冬季のみ、ベレットストーブが設置されています。冬に寒い！という声から置かれたのだそうです(左)。窓には格子を取り付けて程よく光をとり入れています(右)。



男女の表示も木枠で囲まれ、統一感と立体感があります。女子トイレ側には声の記入台と、その上に各種パンフレットがまとめて置かれています(右)。指名手配犯のポスターをこの雰囲気の中で貼るのは、何だかもったいないですね(左)。



女子トイレ。あつみ杉が使われているのはここまでで、個室の内装に木材は使われていません。木材を水周りに用いる時には、清掃時を含めて水がかりを考慮する必要があります。



同じ色のカードの上が利用者の声、下が事務所からの返事です。ふと「生協の白石さん」を思い出しました。